



# リンク新聞

No.2 NEW!

平成23年12月1日発行



## 困ったときや手伝ってほしいとき どうすればいいの？

今回のテーマは、コミュニケーションについての取り組みや支援方法についてご紹介します。自立してひとりで何かを達成することは、もちろん大切なことです。困ったときや手伝ってほしいときに人を呼ぶ・助けを求める」ということも同じくらい大事であると私たちは考えています。

例えば、お菓子の袋が開けられないことでかんしゃくを起こしてしまうお子さまがいます。大人から見れば「あけて」と伝えてくれたらいいのに…。と思うかもしれませんが、自閉症の子どもたちは、『どういう風に伝えたらよいかわからない』また『自分が今困っていることがわかりにくい』という理由で、不適切な行動を取ってしまうことがあります。では、適切にヘルプを出すにはどうしたらよいのでしょうか。リンクでの取り組みをいくつかご紹介します。

### ①手型マークを使って注意喚起する

リンクでは写真カードを使って要求を伝えるということも多くの方が取り組んでいます。スタッフが、お母さんとの距離が離れたり見えなくなったりすると、とたんにどうしたらよいかわからず混乱してしまうお子さまもいます。また大人を呼ぶのに、壁を叩いて注意を引く、人と関わりたいときに人を叩いてしまう、などのお子さまもいます。そこで有効な支援方法が、手型マーク(図1)を使った注意喚起の練習です。手型マークを「トントン」と軽くたたいて注意を引くことで、大人が振り向いてくれることがわかると、適切な方法で人を呼ぶことができるようになるお子さまもいます。



図1 少し離れたところで横を向いている先生にトントンと注意を引いてからカードを渡してほしいおやつを要求しています。

### ②ヘルプカードを使って援助を求める

先にも述べましたように、お子さまの中には「困ったとき」というのがどういうときなのかつかみにくい子もいます。援助の練習をするときは、例えば、プリンが食べたい時にスプーンがない、テレビを見るときにリモコンがないなど、それがないと困る!といった状況をあえて作り、子どもに「今、困っている」ことへの気づきを伝えることも大切です。療育の中でも、課題の材料が足りない、これがないと完成できないなど、子どもが困る状況をつくって、まずはどう表現するか観察してから支援方法を考えます。観察してみると「ないくはない」と独り言のように言っているだけの子、どうしたらいいかわからずそのままです。園や学校の集団生活の中では、こういった困ったときにヘルプが出せないことでストレスを抱えていることが多くあります。

困ったときや助けしてほしいときに、自分から伝えられることは大人になってもとても大切なことです。困ったときは助けを呼ばばいい、手伝ってほしいときは人に伝えてもいいんだとわかると、ストレスも減っていくと考えています。(図2)

### ③リマインダーを手がかりに援助や拒否を表現する

最後に紹介するのは、リマインダー(図3)を使った支援方法です。リマインダーとは、どういうふうに表示すればいいのかを気づかせたり思い出させたりする手がかりのことです。とっさのときに言葉が出てこなかったり、どうすればいいのか混乱してしまうことがよくあります。そのようなときにもリマインダーがあればスムーズに伝えることができ、本人の自信につながります。

コミュニケーションにおいて大事なことは「自分から表現できる」ことです。それは発語のあるなしに関わらず、お子さま自身が「うまく伝わった!」という実感や達成感を日常の中で多く感じられてストレスなく生活できることが何よりも大切です。



図2 「てつだって」「きてください」と書かれたヘルプカードをスタッフのところまで持っていく助けを求めます

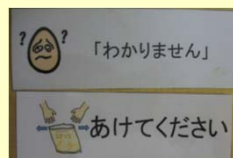


図3 リマインダーを手がかりに援助や拒否の練習をします

#### 編集後記

絵カードを使った要求の取り組みについてはan新聞で取り上げておりますので、合わせてご参照ください。  
寒い季節到来!風邪など引かないように十分気をつけてくださいね!  
(市原)